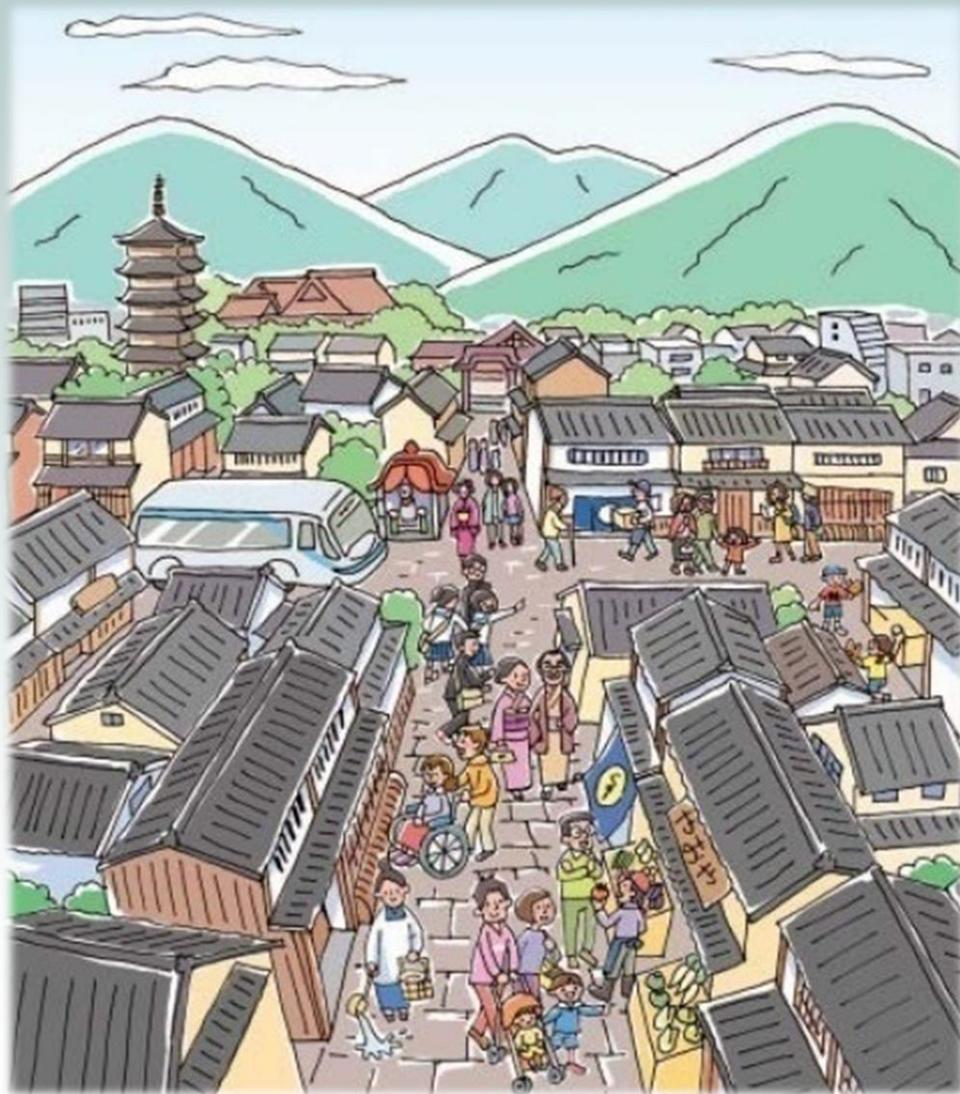


## 「歩くまち・京都」推進会議 説明資料



令和2年3月19日

# 「歩くまち・京都」推進会議の役割

## 「歩くまち・京都」総合交通戦略

数値目標: 非自動車分担率 72%→80%以上

戦略の着実な推進により基本理念を具現化

シンボルプロジェクトをはじめ94の実施プロジェクトの推進

進捗状況を確認し  
施策の効果を検証

戦略の充実等について  
幅広い観点から検討

ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現

## 基本理念

自動車交通の制限を含めた様々な抑制策等を通じて、クルマを重視したまちと暮らしを、「歩く」ことを中心としたまちと暮らしに転換していく。

京都議定書誕生の地であり、環境モデル都市でもある京都が日本を代表する「国際文化観光都市」であると同時に、まちの賑わいを生み出す都市であり続けることを目指す。

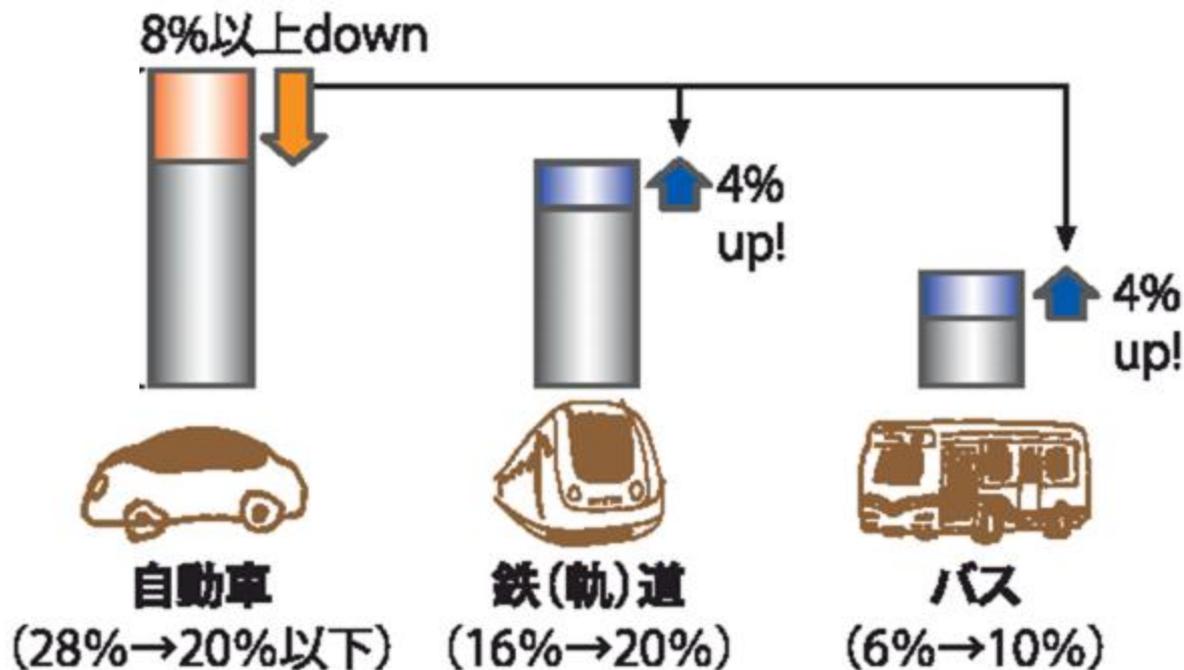


**脱「クルマ中心」社会を実現するため、戦略の理念を共有し、行政、事業者、市民の皆様が一体となって、94の実施プロジェクトの着実な推進を図る。**

# 「歩くまち・京都」総合交通戦略の数値目標

自動車の分担率を**28%\***から**20%以下**にまで  
下げていく、脱「クルマ中心」社会を目指します。

※ 第4回京阪神都市圏パーソントリップ調査結果より(平成12年)



## 議題（１）

# 「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進について

（１）－１ 戦略に掲げる実施プロジェクトの取組状況

（１）－２ 令和元年度の主な取組

（１）－３ 主な成果, 効果検証

# (1)ー1 戦略に掲げる実施プロジェクトの取組状況

分野	施策分類	進捗状況			
		企画構想 段階	事業 推進中	事業が ほぼ達成	合計
分野1 「既存公共交通」の取組	(1)公共交通利便性向上施策	1	42	12	55
	(2)「歩くまち・京都」を支える 歩行空間の充実	0	2	1	3
分野2 「まちづくり」の取組	(3)未来の公共交通の充実	0	2	1	3
	(4)自動車交通の効率化と適正化	0	8	0	8
	(5)パーソナルモビリティの転換	0	2	1	3
分野3 「ライフスタイル」の取組	(6)「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発	0	1	0	1
	(7)交通行動スタイルの見直しを促す コミュニケーション施策 (モビリティ・マネジメント施策)	0	20	1	21
合計		1 (1%)	77 (82%)	16 (17%)	94 (100%)

※ 詳細は参考資料のとおり

# (1)ー2 令和元年度の主な取組

## <「既存公共交通」の取組>

- ・ 「京都市公共交通ネットワーク会議」において、公共交通の利便性向上の取組の一環として、市内を運行するバスの系統番号のあり方を検討
- ・ 駅及び周辺道路等のバリアフリー化整備を推進  
(令和2年2月 西院駅(阪急)完了 等)

## <「まちづくり」の取組>

- ・ 「自動運転の社会実装に向けた検討会議」において、これまでの議論を活動報告書として取りまとめ(予定)
- ・ 東本願寺の門前について、市道の車道部分と東本願寺所有の緑地を市民緑地として整備し、一体的な緑の空間として活用していくことで東本願寺と合意

## <「ライフスタイル」の取組>

- ・ 地域と連携したモビリティ・マネジメント(MM)を市内3箇所で実施  
(北区, 西京区, 伏見区)
- ・ 「歩くまち・京都」学習実践校として、3つの小学校で学校MMを推進

# ○ 事業者連携による公共交通の利便性向上

市域を運行するバス・鉄道16事業者で構成される「京都市公共交通ネットワーク会議」において、交通事業者による連携の下、ダイヤ調整や案内表示の整理・統一など、利用者視点で公共交通の利便性向上につながる取組を展開している。

## 令和元年度の取組

### ◆公共交通利便性向上検討WG（洛西，四条大宮，出町柳，まちなか，三条）

- ・ 地域イベントでの公共交通利用促進のPR（らくさいさくら祭）
- ・ 各社局のダイヤ改正等に合わせた共通案内板（乗り場，路線図等）の修正

### ◆歩くまち・京都レールきっぷWG

- ・ 鉄道事業者5社局と連携し，京都市内の主な鉄道路線が乗り放題となり，文化・観光施設等の料金割引などの優待も付いた企画きっぷを販売（夏版：有効期間 R1. 7/1～9/30 冬版：有効期間 R1. 12/1～R2. 3/31）

### ◆ICカード普及啓発WG

- ・ 民間事業者等と連携したPR活動の継続

### ◆外国語案内充実WG

- ・ 訪日外国人旅行者等の円滑な移動に向け，市内を運行するバスの系統番号のあり方について議論，検討
  - ⇒ 外国籍市民と交通事業者による意見交換会の開催
  - 国庫補助を活用し，系統番号整理に向けた調査・分析を実施

# ○ 歩くまち京都アプリ「バス・鉄道の達人」

鉄道・バスでの効率的なルート案内情報の充実の取組として、平成25年8月から、京都市域を運行するバス・鉄道を対象に、出発地と目的地を入力するだけで最適な移動経路や運賃、所要時間を検索できる無料の経路検索システムを運用している。

## アプリの特徴

- ・ 16のバス・鉄道の乗換検索が可能
- ・ 駅名、停留所名に加え、寺院・神社、施設名等（約2,400施設）からも検索可能
- ・ 車両にGPSを搭載している市バス、京阪バス、京阪京都交通（一部路線）について、全国初となる、その日の道路状況を加味した到着予測時刻を表示



## ◆平成30年7月 アプリリニューアル

- ・ 検索機能の充実・強化、多言語対応、デザインの改良等を実施

## 令和元年12月末時点 利用状況（累計）

- ・ スマホ向けアプリDL数：約58万件  
うち、英語版DL数：約11万件
- ・ ウェブサイト閲覧数：約5千万ページビュー



トップ画面



検索結果(ルート)画面

# ○ 駅等のバリアフリー化の推進

全ての人々が安心安全で円滑に移動できる社会を実現するため、平成23年度策定の「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想に基づき、駅及び周辺道路等のバリアフリー化を推進している。

全体構想では、1日平均利用者数3千人以上の駅を対象に10地区(11駅)の重点整備地区を選定しており、国・府・鉄道事業者と連携して着実に事業を進めていく。

## 令和元年度の取組



工事が完了した西院駅(阪急)



北野白梅町駅(京福) リニューアルイメージ

駅名	実施内容
西院駅 (阪急)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阪急西院ビルの整備 (病児病後児保育施設の整備)</li> <li>改札階～ホーム階をつなぐエレベーターの新設</li> </ul> <p><b>【令和2年2月完了】</b></p>
西大路駅 (JR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>こ線橋や北側駅舎の基礎等の工事</li> </ul>
桃山駅 (JR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>こ線橋, エレベーター設置工事</li> </ul>
京都駅 (JR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昇降式ホーム柵の設置工事 (機器製作等準備工事)</li> </ul>
北野白梅町駅 (京福)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存駅舎のリニューアルに伴い, スロープ整備</li> <li>多機能トイレの新設</li> <li>駅, バス停の一体化による乗継利便性向上</li> </ul> <p><b>【令和2年3月20日 供用開始予定】</b></p>

# ○ 生活交通の維持・確保①

路線バスについて、市内中心部の市バス運行エリアではバス停留所の環境整備や路線・ダイヤの充実等により利便性が向上し、市内周辺部の民間バス運行エリアとの間でサービス格差が生じている。

こうした状況を踏まえ、市内周辺部において市民生活の足の役割を担う民間バス事業者に対し、京都市独自の補助制度によって支援を行っている。

## バス利用環境の整備に対する支援

### 概要

市内全域におけるバスの利便性を向上させるため、バス利用環境の整備を実施する民間バス事業者を支援

### 【補助対象事業】

- 1 バス停留所上屋
- 2 バス停留所ベンチ
- 3 電照式バス停留所標柱
- 4 バス停留所標識柱の照明機器
- 5 バスロケーションシステムのモニター
- 6 車内用液晶表示器
- 7 その他市長が必要と認める設備の整備

※ 整備の対象となる設備の構造、規模、性能等について市バスにおける同様の事例と水準をあわせる。

### 【補助額】

補助対象経費の5分の4

## バス路線充実等の社会実験に対する支援

### 概要

主に京都市民の日常生活に必要なバス路線を充実させるため、民間バス事業者が本格運行を視野に入れて実施する社会実験を支援

### 【社会実験の要件】

社会実験の対象となる地域において、「日常生活に必要なものとして充実すべきバス路線である」という合意が形成されていること

### 【補助対象経費】

- 1 バス利用促進のモビリティ・マネジメントに係る経費〔全額補助〕
- 2 バス運行計画の作成に係る経費〔補助率5分の4〕
- 3 バス停留所標柱等の地上案内設備やバス車上案内設備の設置・更新等に係る経費〔補助率5分の4〕
- 4 バス車両の調達経費〔全額補助〕
- 5 バス運行に係る経費〔全額補助〕(市長が特に認めた場合のみ)

※ 各項目に上限額あり

○ 生活交通の維持・確保②

令和元年度の取組

◆バス利用環境の整備に対する支援

- 民間バス事業者に対して、バス停上屋やベンチの整備等、  
**合計223件の整備に対する支援を行う予定**

(単位：箇所)

	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	右京区	西京区	伏見区	車内設備	合計
上屋			4			3						7
ベンチ	1		17			3						21
停留所標識柱			10		1			2	1	2		16
標識柱照明機器	7	3	53	6	1		4	20	6			100
バスロケモニター												0
車内用液晶表示器											79	79

◆バス路線充実等の社会実験に対する支援

- 平成29年10月から増便に係る社会実験を開始した京阪バス「鏡山循環バス」及び「くるり山科」、平成31年3月から路線新設に係る社会実験を開始した京阪バス「小金塚地域循環バス」に加え、**令和元年12月から新たに左京区岩倉幡枝地域で開始された京都バス「西幡枝線」の実証運行についても支援を実施**

# ○ 乗合バスについて ~各地域の取組①

少子高齢化や人口減少が進む中山間地域においては、地域の実情（需要）を踏まえたバスの運行が行われている。本市としては、持続的な運行維持方策を地域住民、区役所、交通事業者とともに検討しながら、必要に応じて支援を行っている。

## 概要

### ◆右京区京北地域

旧京北町営バスを引き継ぐ形で、(公財)きょうと京北ふるさと公社が、京北内各地域でバスを運行している。

### ◆右京区水尾地域

地域が主体となり、自治会バスを運行している。



### ◇左京区久多地域

地域の最寄りバス停と市街地を結ぶバスが減便したため、地域が主体となったバスを運行している。

### ◇北区雲ヶ畑地域

地域と市街地を結ぶ唯一のバスが撤退したため、地域が主体となって、運送業者に委託し、バスを運行している。

# ○ 乗合バスについて ~各地域の取組②

## 令和元年度の取組

### ◆北区雲ヶ畑地域（雲ヶ畑バス「もくもく号」の運行継続）

- ・ 雲ヶ畑地域 ⇔ 地下鉄北大路駅（1日2便）
- ・ 持続可能な運行確保のため、地域の総意の下、令和2年4月から運賃を片道500円→700円に改定する



雲ヶ畑バス「もくもく号」

### ◆左京区久多地域（「やまびこ号」の運行継続）

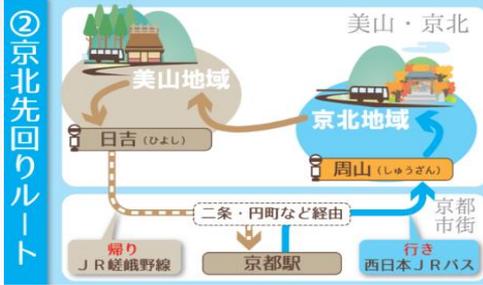
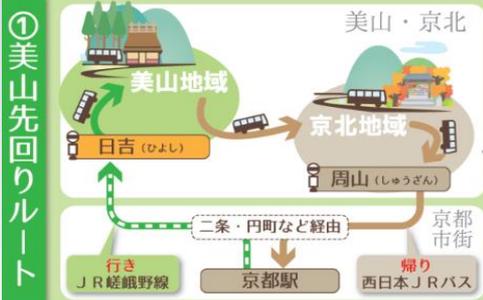
- ・ 久多地域 ⇔ 堅田駅（月2回の定期便，4～12月），その他に臨時便として9つの運行区間を設定
- ・ 運賃：片道500円（定期便）

### ◆右京区水尾地域（「水尾自治会バス」の運行継続）

- ・ 水尾地域 ⇔ JR保津峡駅（1日5便）
- ・ 運賃：片道250円

### ◆右京区京北地域（「京北ふるさとバス」の運行継続）

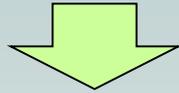
- 西日本JRバス高雄・京北線の往復企画切符及び京北一日フリー乗車券販売の継続
- 「美山・京北バス旅ルート」の継続
  - ・ 美山地域と京北地域を，京北ふるさとバスと南丹市営バスを利用して周遊する観光ルートの継続
  - ・ 南丹市美山観光まちづくり協会と連携し，「美山ナビ」HPに同ルートの情報を掲載



美山・京北バス旅ルート

## ○ ビッグデータ等を活用した交通流動実態調査

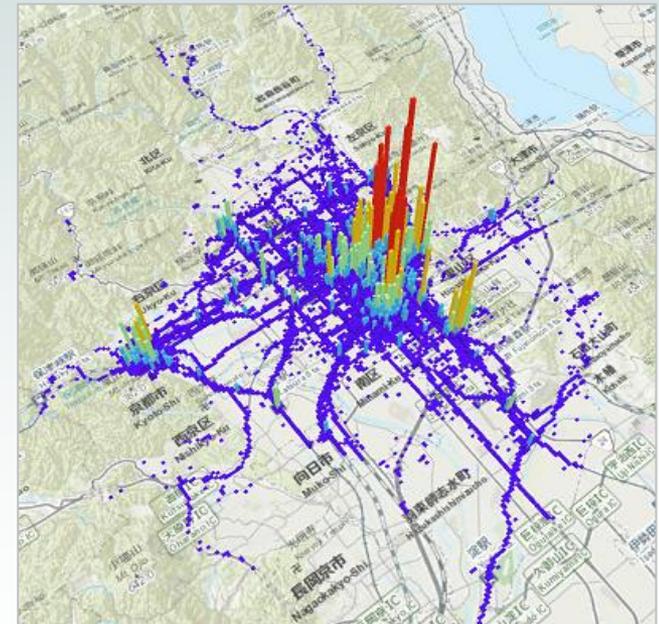
市域における市民等「定住人口」と観光客等「交流人口」の交通流動の実態を把握し、関連施策の基礎データとして活用するため、平成30年度に、端末位置情報（スマートフォン等のGPSデータ）を活用した交通流動実態調査を実施した。



詳細は、**資料4**で説明

### 調査結果（令和元年度とりまとめ）

- ・ 端末位置情報による取得した220万件に及ぶサンプルデータを、以下の4つの属性に分類
  - 京都市民
  - 市外居住者（日常移動）
  - 市外居住者（観光移動）
  - 訪日外国人
- ・ 人の流動が集中する地域、移動パターン、季節、時間帯別による移動特性等を分析
- ・ 調査結果を京都市の全局区に共有し、「市民生活との調和を最重要視した持続可能な観光都市」に関する取組等、交通結節点等における混雑緩和や観光客の分散化につながる施策の検討に活用



調査結果イメージ

# ○ 自動運転技術の社会実装に向けた検討

自動運転技術を市政課題の解決に活かしていくため、「自動運転の社会実装に向けた検討会議」を設置し、京都のまちの特性に応じた自動運転技術等の新たなモビリティサービスの活用について、多面的に検討を行っている。

## 「自動運転の社会実装に向けた検討会議」の取組

- ・ 平成29年10月設置，様々な分野の学識経験者等で構成
- ・ これまでに，年2回程度検討会議を開催してきたほか，事業構想を有する事業者等と連携し，新たなモビリティサービスを具体的にイメージ，又は類似的に体験できる市民参加のシンポジウムや体験乗車イベントを開催

## 令和元年度の取組

- ・ 令和元年12月に，第5回目となる検討会議を開催
- ・ 今後，令和元年度末をめどに，これまでの議論を，活動報告書『「歩くまち・京都」における新たなモビリティサービスの活用方策』として取りまとめる予定

※ その他，平成30年度に，国の補助金を活用し，自動運転による新たな都市交通システムに関する調査を実施



過去の体験乗車イベントの様子

詳細は，資料5で説明

# ○ MaaSの推進

## MaaSとは… (Mobility as a Service)

MaaSは、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を一つのサービスと捉えシームレスにつなぐ新たな移動の概念。

MaaSアプリにより、経路や発着時刻、所要時間、利用料金を一括して検索・予約・決済できるようにすることで、快適で効率的な移動環境創出、人の移動の最適化が期待できる。

詳細は、**資料6**で説明

◆京都市におけるMaaSの推進 = 市域のバス・鉄道の公共交通網の更なる  
利便性向上、利用促進を図ることが第一

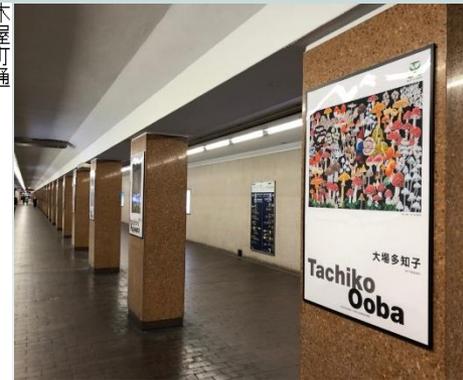
## 令和元年度の取組

- ・ 「京都市公共交通ネットワーク会議」に参画するバス・鉄道事業者(16事業者)から、保有するデータの取扱いに関する方針やMaaSに対する意向を聴取
- ・ 国に対し、各交通事業者が保有するデータを、事業者の負担を軽減しながら収集し活用するための制度づくりや財政支援について要望

# ○ 四条通地下道の活性化

地元、商業施設、事業者等と連携し、四条通地下道が安心安全、快適で、地上・地下を含めたより一層の魅力と賑わいづくりにつながるよう、写真や絵画作品の展示スペースとして活用するなど、「快適で魅力的な歩行空間」の創出に取り組んでいる。

## 令和元年度の取組



アート作品のパネル展示の様子

### ◆ 地下道中央エリア(美化実施エリア)の文化的活用

- |                                |                          |
|--------------------------------|--------------------------|
| ・ パネル展「京都と皇室の軌跡 ～平成から令和へ～」     | 平成31年 4月22日 ～ 令和元年 5月 7日 |
| ・ 祇園祭創始1150年記念「市民公募写真展」        | 令和元年 7月 1日 ～ 令和元年 7月31日  |
| ・ 「平成最後の日 ～その日京都で～」写真展         | 令和元年10月 1日 ～ 令和元年10月11日  |
| ・ 「天才アートがやってきた! ～公共空間にアートの彩り!」 | 令和元年12月 3日 ～ 令和 2年 2月24日 |

### ◆ 四条通地下道の更なる活性化に向けた検討

- ・ 持続的な活性化方策及び適正な管理の在り方等について、引き続き検討

## ○ 安心安全な東大路歩行空間創出事業

多くの市民・来訪者が訪れる東大路通及びその周辺において、安心・安全で快適な歩行空間の創出を目的に、地元代表や交通事業者等からなる「東大路通歩行空間創出推進会議」の中で議論を進め、歩行環境の改善等の取組を進めている。

	改善の視点	取組項目
短期・中期の取組	歩道環境の改善	取組1：横断勾配の改善
		取組2：電柱等の移設と集約
		取組3：部分的な歩道拡幅
	バス待ち環境の改善	取組4：バス停移設
		取組5：バス待ち空間の確保
	回遊性及び案内誘導の向上による歩行者の分散	取組6：魅力ある道路整備による誘導促進
		取組7：案内標識等の充実
継続していく取組		取組8：バス利用環境の改善
		取組9：自動車交通の最適化(道路空間の再構成)
		取組10：自転車のルール・マナーの啓発

清水道バス停(北行) 移設前(上)・移設後(下)



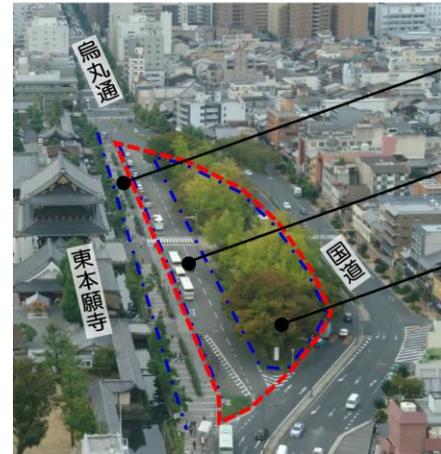
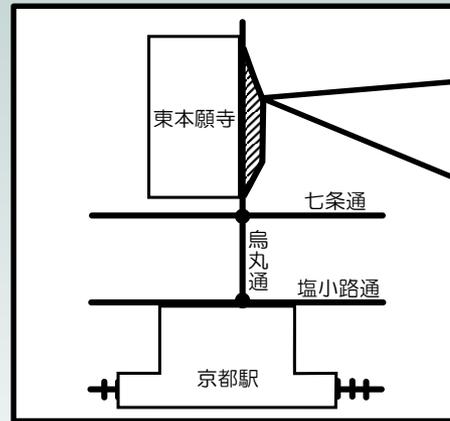
## 令和元年度の主な取組

- ・ 東大路通（四条～五条通間）の歩道の横断勾配を改善
- ・ 良好なバス待ち環境の創出のため、清水道バス停（北行）をバス待ち客の滞留スペースが多く確保できる東山区役所前に移設

# ○ 東本願寺前における市民緑地の整備

東本願寺の門前について、これまで以上に市民・来訪者のための「賑わい・憩いの空間」「歴史・文化の発信の空間」「修学旅行生などのおもてなしの空間」となるよう、東本願寺との合意の下、市道の車道部分と東本願寺所有の緑地を、京都市初の「市民緑地」として整備し、一体的な緑の空間として活用していく。

## 市民緑地 の イメージ図



市道（歩道・自転車道）

市民緑地

市道（車道）

約3,000㎡

東本願寺所有地（緑地）

約4,000㎡

【市民緑地】都市緑地法に定められた、地方公共団体等が土地所有者との合意の下、住民の利用に供する緑地又は緑化施設

- ・ 令和元年11月 共同記者会見で東本願寺前市民緑地整備について公表
- ・ 令和2年 設計着手

※ 事業期間は3箇年程度要する見込み

# ○ 観光地交通対策の推進

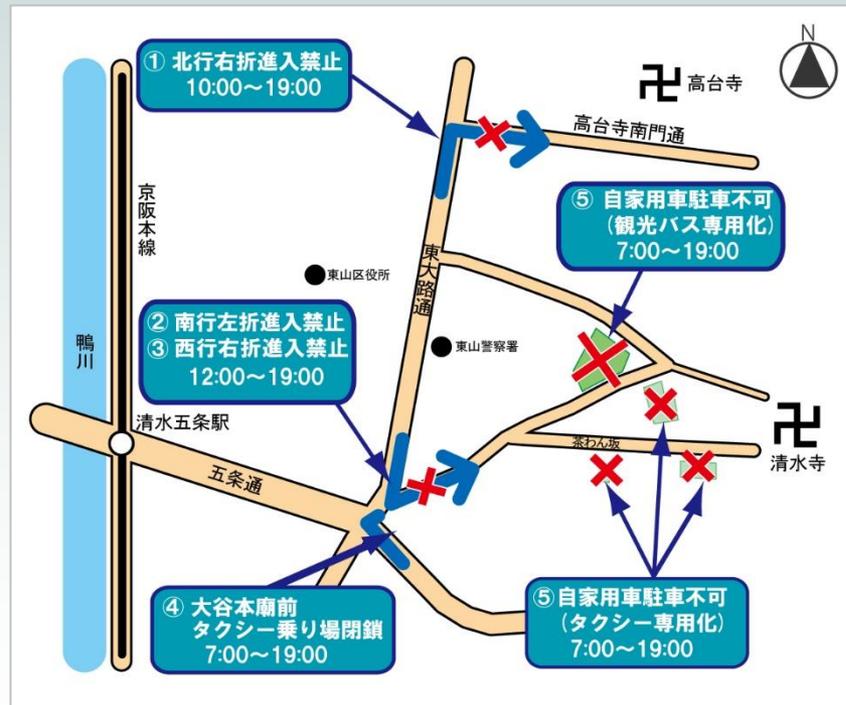
秋の紅葉シーズンの嵐山地区・東山地区における、交通の円滑化と安全快適な歩行空間の創出のため、地域関係者、交通事業者、京都府警察等の関係機関で構成する「嵐山交通対策研究会」及び「東山交通対策研究会」での議論を踏まえ、交通対策を実施している。

## 令和元年度の取組（対策日11月16日、17日、23日、24日の主な実施内容）

### 【嵐山地区】



### 【東山地区】

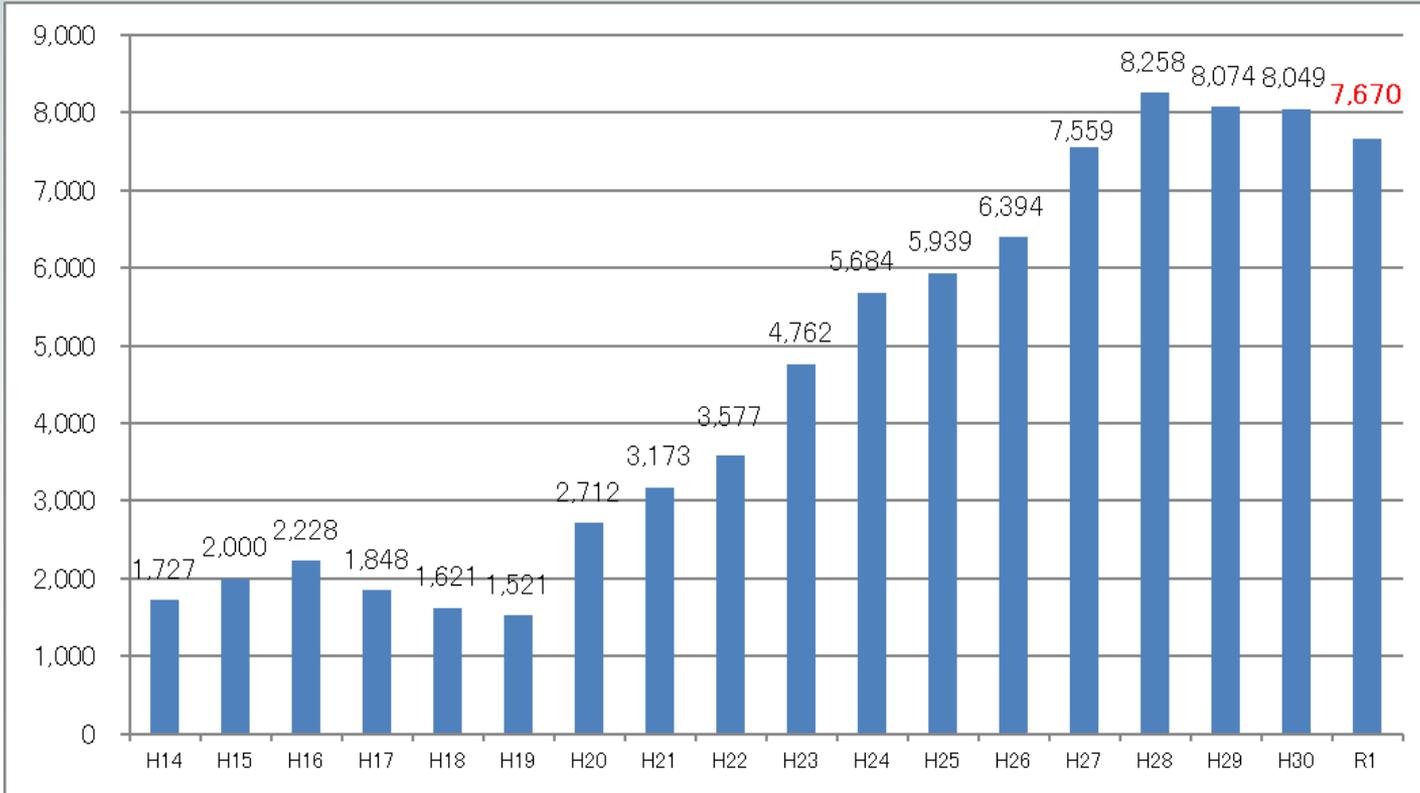


◆ 令和元年度は、嵐山・長辻通の北行一方通行規制を11月中の平日にも拡大

# ○ パークアンドライドの推進

京都市内への自動車の流入抑制と公共交通の利用促進を図るため、近隣自治体、駐車場事業者等と連携し、乗換えに便利な駐車場を通年のパークアンドライド駐車場として登録のうえ、ホームページ等で広報し、利用促進を図っている。

## 令和元年度までの実績



※秋の観光シーズンに期間限定で開設する駐車場を含む。  
資料:京都市資料

○まちなかへの車両流入抑制のため、秋と春にチラシを配布し広報  
〔近畿圏の道の駅、SA等62箇所〕



(年度)

# ○ モビリティ・マネジメント(MM)の推進

クルマ中心から公共交通と歩くことを中心としたライフスタイルへの転換を一人ひとりに促すため、市民・企業・学校・交通事業者・関係行政機関等と連携し、様々な主体に対し様々な手法でモビリティ・マネジメントの取組を展開している。

## 主な取組内容

### ◆ 広く普及啓発を図るもの

- ・ 各種広報印刷物，ラジオ・テレビ・インターネット等のメディアを活用した広報活動を展開
- ・ 市内各所でのイベントブース出展によるPR
- ・ 教育現場と連携し，小学校での「歩くまち・京都」学習実践校の取組を実施
- ・ 京都市への転入者に対し，全エコまちステーションで，公共交通の情報等を記載したリーフレットと市バス・地下鉄路線図を配布
- ・ エコ通勤に関心がある事業所に対し，啓発チラシを配布



イベントブース出展の様子

### ◆ 各対象へ交通行動の自発的な転換を働き掛けるもの

- ・ 特定の地域において，アンケート等を通して住民の交通行動の自発的な変容を促すコミュニケーション・アンケートを実施
- ・ 地域住民が主体となった公共交通利用促進の取組に対し，支援を実施

## 令和元年度の取組

- 過度なクルマ利用から公共交通へ市民のライフスタイルの転換を促すことを目的として、左京区市原野学区・右京区宇多野学区を対象に、地域別の公共交通マップ・時刻表の配布や交通行動の変革を促すコミュニケーション・アンケートを実施

事業の流れ		実施数値	左京区 市原野学区	右京区 宇多野学区	計
ステップ 1	一次アンケート配布 (R1.11.16~)	配布数	2,378	4,171	6,549
		回収数(回収率)	416(17.5%)	772(18.5%)	1,188(18.1%)
ステップ 2	二次アンケートへの協力を承諾した方に効果検証のための二次アンケート配布(R2.1.8~)	配布数	165	318	483
		回収数(回収率)	103(62.4%)	201(63.2%)	304(62.9%)
ステップ 3	効果のフィードバック【全世帯に調査結果を報告】(R2.2.6)				

### 今回の取組に対するご感想

- 車が便利である反面、「肥満」「家計にきびしい」ことなどは、**生活するなかでのリアルな問題だったので、考え直す機会になりとてもよかったと感じています。**
- **普段から車より電車、バスを利用しようともっと思うきっかけになりました。**
- このプロジェクトは、**超高齢社会の中での個々の市民一人一人の健康維持、増進への取組であると同時に、脱炭素社会の実現に向けた取組**でもあり、大変意義のあるものと考えます。

## 令和元年度の実施

- ・クルマから公共交通機関等への交通手段の見直しに意欲が高い地域が取り組まれる事業に対して、必要な支援を実施

選定事業	実施概要
<p>柘野学区における公共交通利用促進事業 (北区)</p>	<p>宅地開発による人口増に伴い、地域の住民の足を確保するために平成26年3月に運行を開始した、市バス特37号系統の利用促進を図り、ニュースレターの作成・配布や利用促進会議の開催、地域イベントでのPR、沿線の他地域と連携した取組を実施</p>
<p>福西学区における公共交通利用促進事業 (西京区)</p>	<p>平成26年10月に運行を開始した、市バス特西4号系統について、地域住民の高齢化に伴い増便が求められていることから、まず利用促進を図り、ケーブルテレビでのCM放映、ポケット時刻表の製作・配布、地域イベントでのPRを実施</p>
<p>醍醐地域における公共交通利用促進事業 (伏見区)</p>	<p>平成16年2月に運行を開始した醍醐コミュニティバスについて、今後も継続して運行するため、「醍醐コミュニティバス800万人乗車記念イベント」の開催により利用促進を図り、地域で開催される他のイベントでも啓発を実施</p>

## 令和元年度の取組

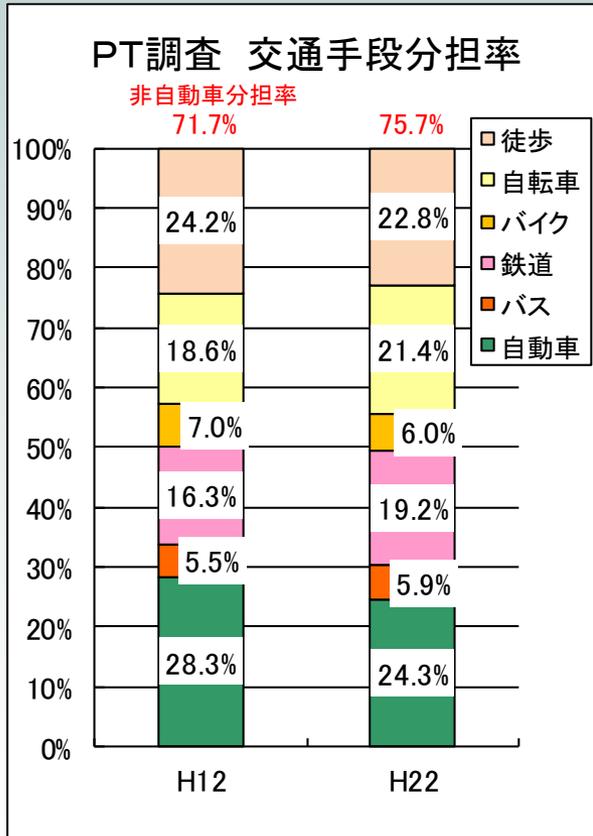
- ・ 学識経験者，教育委員会，学校教員からなる「歩くまち・京都」学習検討会・勉強会を開催（3回）し，「歩くまち・京都」学習実践校の取組を共有
- ・ 「歩くまち・京都」学習実践校を3校選定し，各校で「歩くまち・京都」を題材に，小学生がまちづくりと交通の関係などについて学ぶ公開授業を実施
- ・ 学習実践校が実施する公開授業の内容を広く教員に共有し，今後の授業に活かしてもらうため，公開授業を振り返る「事後研究会」を開催

学校	学年	教科	テーマ
岩倉北小学校	6年生	総合的な学習	「わたしたちの京都市 持続可能なまちづくりに能動的に関わる子ども」 ～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～
安朱小学校	4年生	総合的な学習	安心・安全なまちづくりプロジェクト～安朱安朱の素敵を伝えて，未来につなげよう
鏡山小学校	3年生	総合的な学習	「関係づける力」を育む探究的な活動を通して，自分の思いや考えを豊かに表現する子の育成（京阪バスの鏡山循環システムのPR）

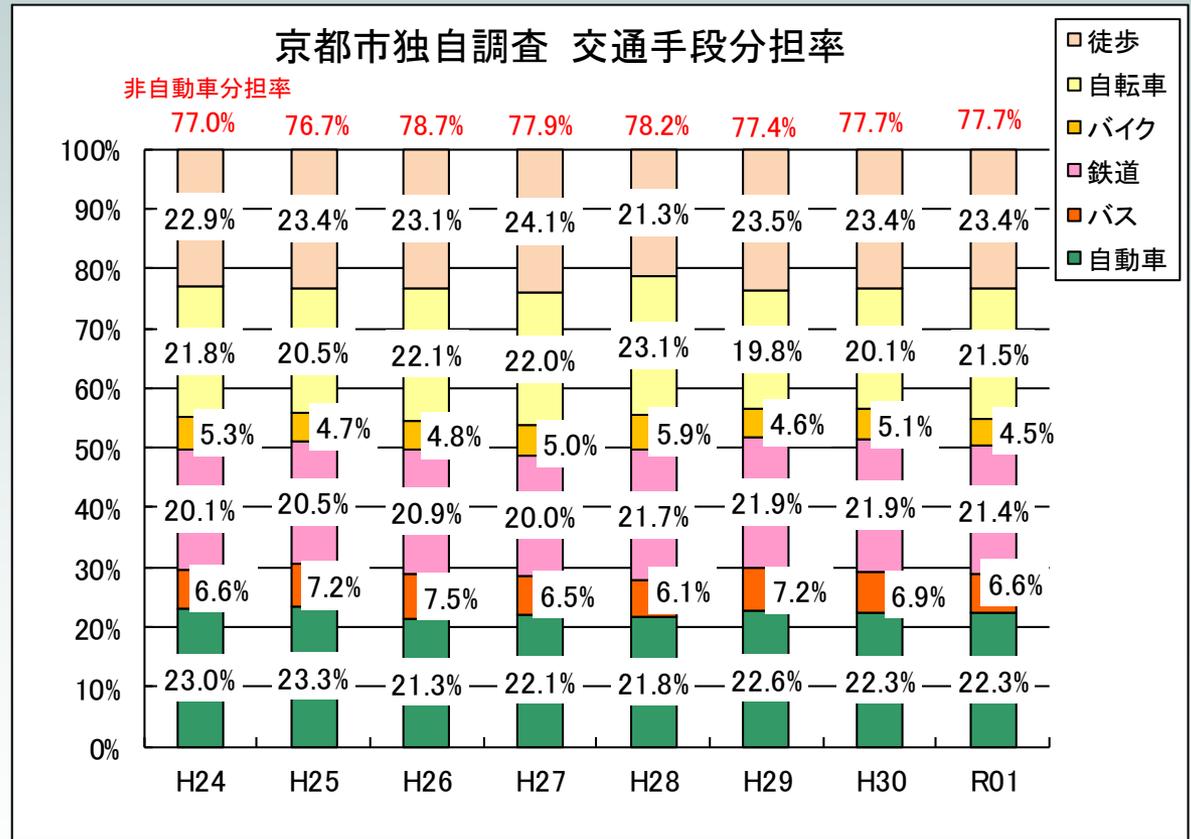
# (1)-3 主な成果, 効果検証

## ◆ 総合交通戦略の数値目標: 非自動車分担率

- 非自動車分担率は、京都市独自調査の結果、令和元年度は約78%と、目標達成に向けて高水準を維持している。



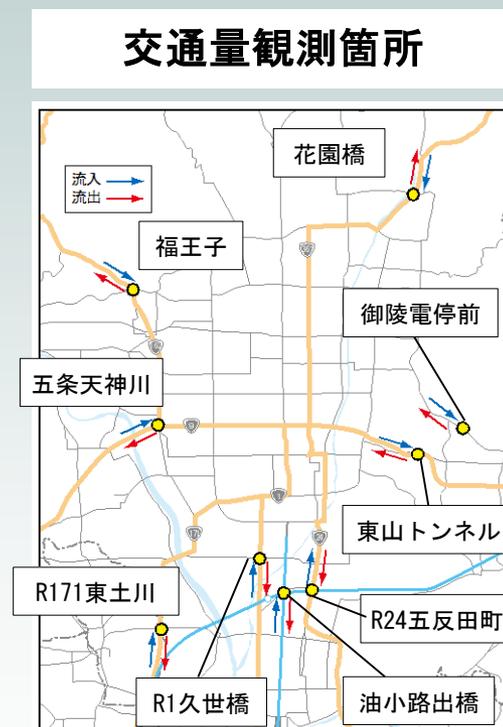
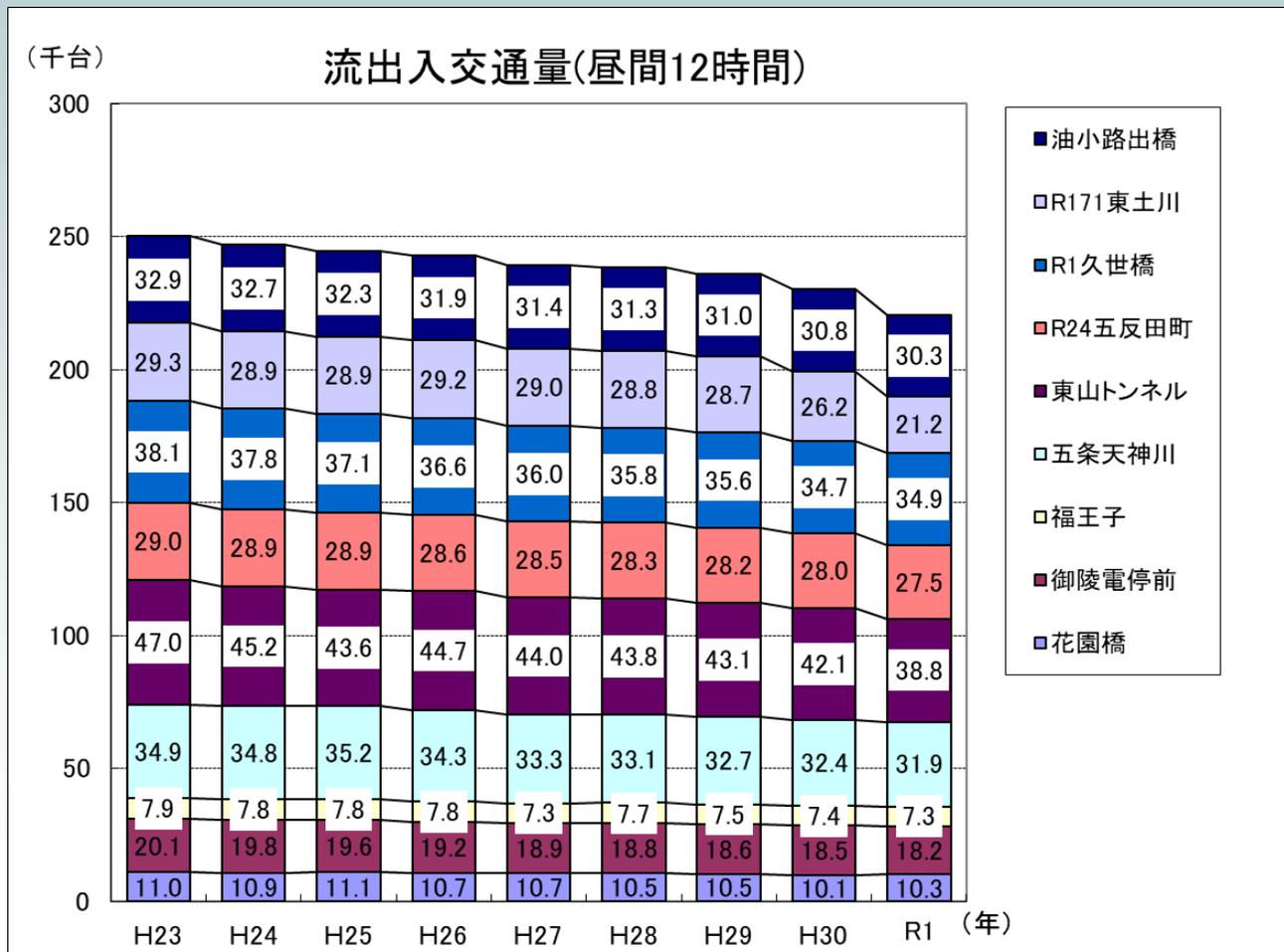
PT調査(京阪神都市圏パーソントリップ調査)は交通計画, 防災計画等の基礎資料とすることを目的に, 10年毎に実施。  
H22の対象者数は約70万人(非外出者を含む)



京都市独自調査は、数値目標である京都市の交通手段分担率をモニタリングすることを目的に、京都市民を対象にH24から毎年実施。京都市民以外の京都市の交通はPT調査と同じとしている。対象者数は約1千人(外出者のみ)  
※「その他」をグラフから除外していること及び四捨五入により合計が100%にならない場合がある

# ◆ 市街地への流出入交通量

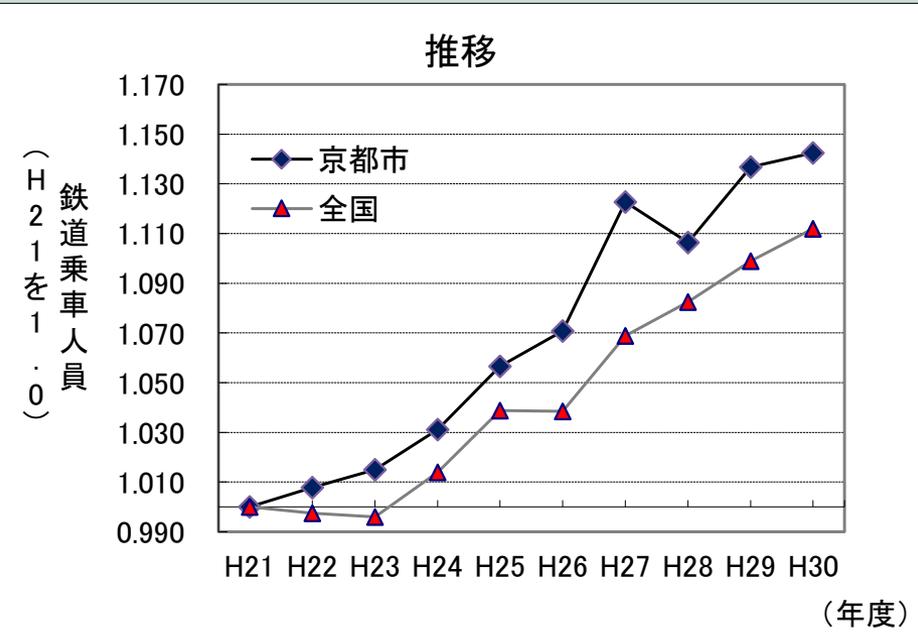
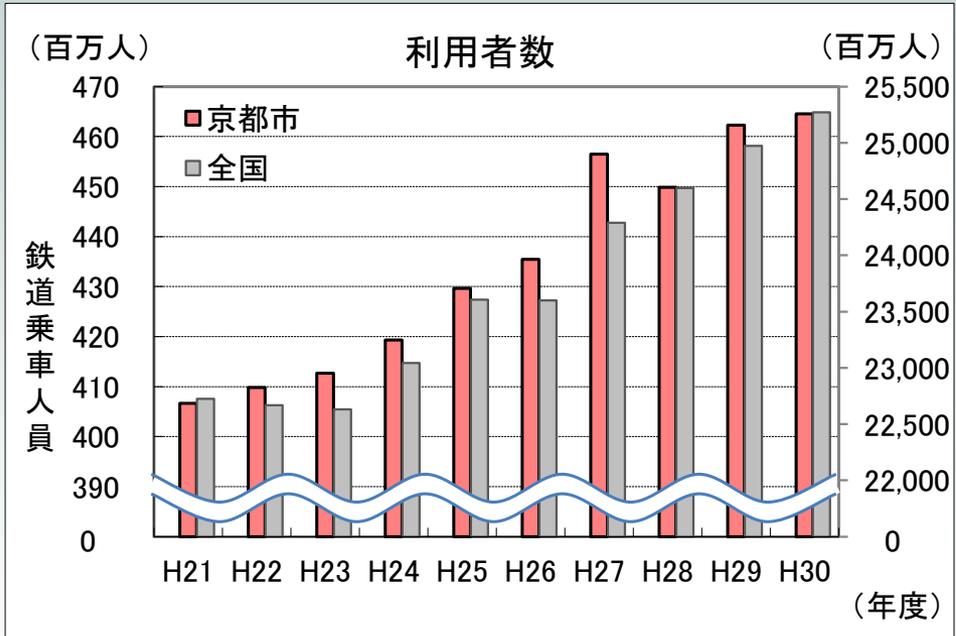
- 市街地への流出入交通量は、経年的に減少傾向で推移している。
- 平成23年と令和元年とを比較すると、約12%減少している。



資料:京都府警資料

# ◆ 公共交通機関利用状況（鉄道利用者数）

- ・ 鉄道利用者数は、経年的に増加傾向にある。
- ・ 平成21年度と平成30年度とを比較すると、京都市は約14%増加しており、全国平均と比べて高い水準で推移している。

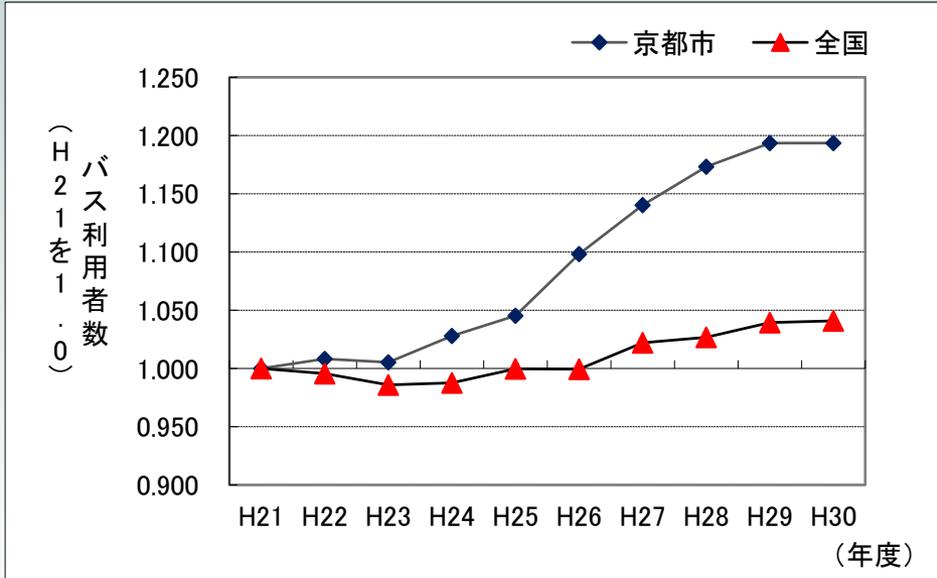
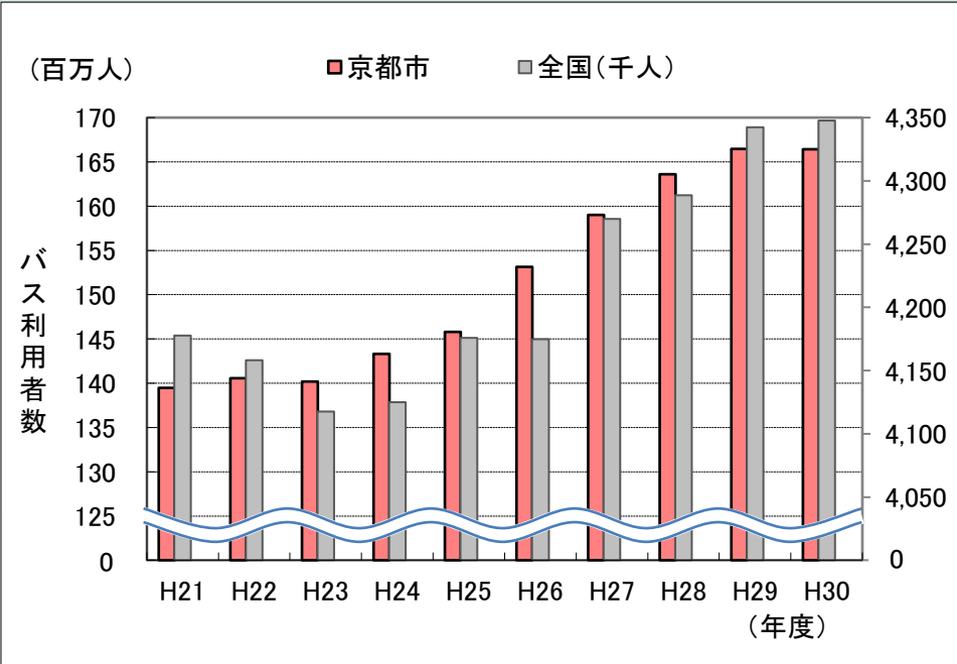


※ 平成28年度は、一部事業者の算定方法に変更があった。

京都市調べ  
 <全国> 出典：鉄道輸送統計年報

# ◆ 公共交通機関利用状況（バス利用者数）

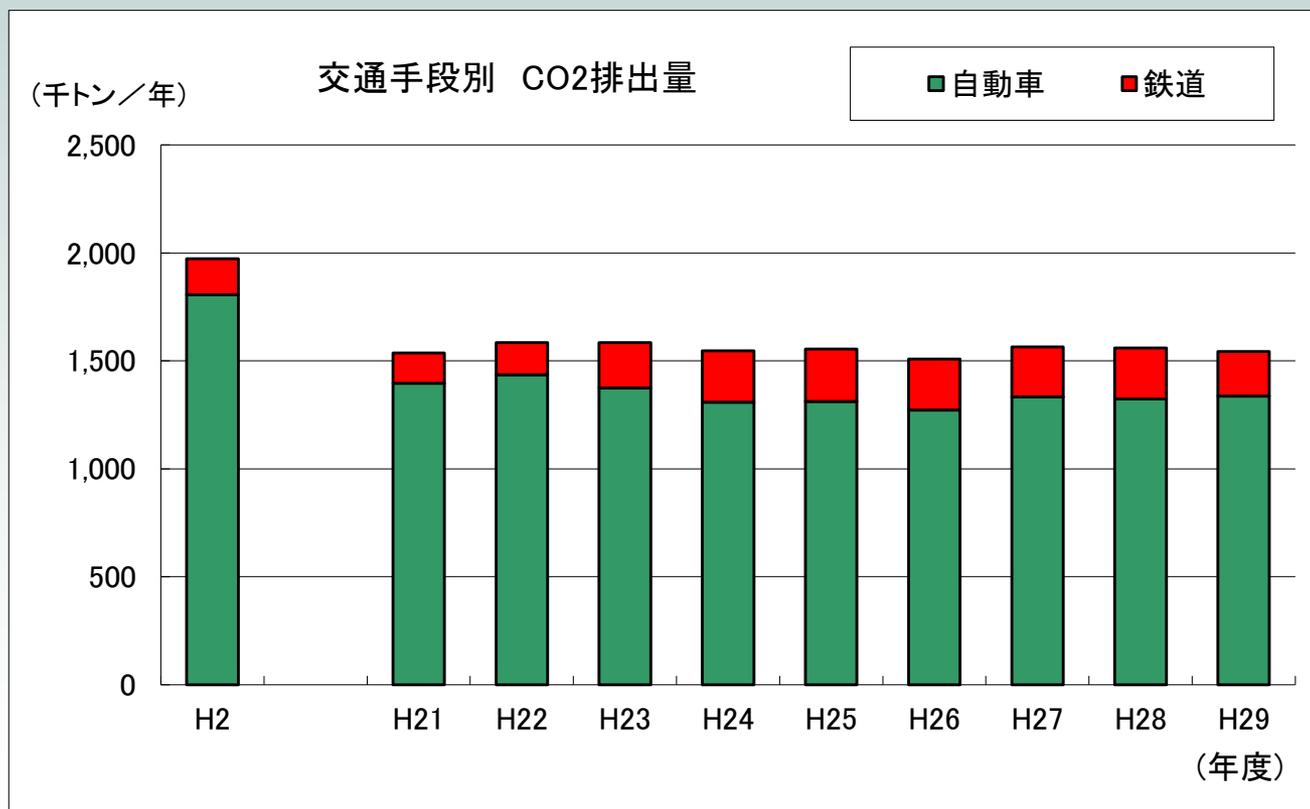
- ・ バス利用者数は、経年的に増加傾向にある。
- ・ 平成21年度と平成30年度とを比較すると、全国平均はほぼ横ばいで推移しているのに対し、京都市は約19%増加している。



京都市調べ  
 <全国> 出典：国土交通省資料

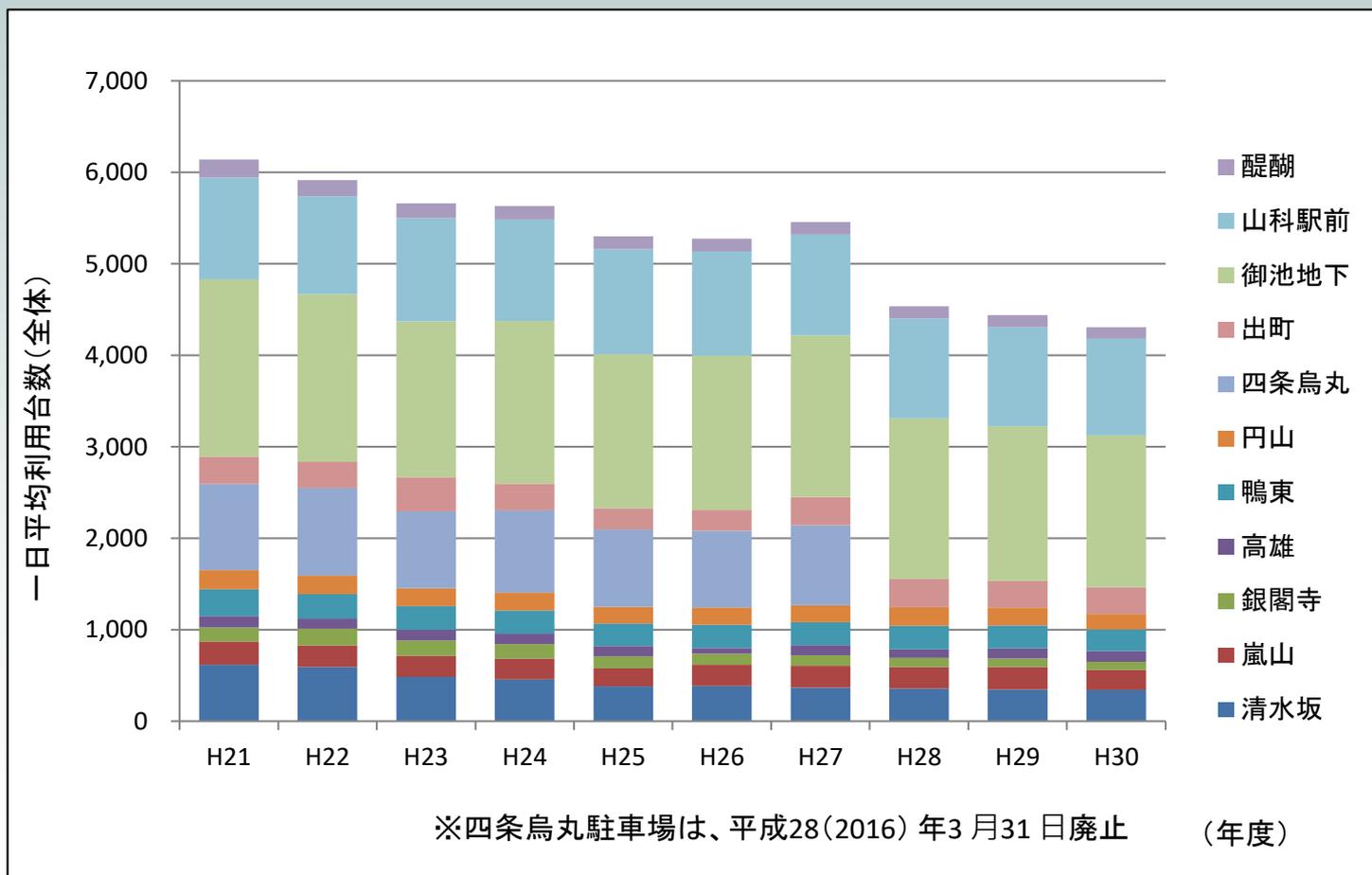
# ◆ CO2排出量

- 運輸部門のCO2排出量は、エコカーの普及、燃費性能の向上、「DO YOU KYOTO?」プロジェクト（公共交通優先利用等）の周知等により、平成2年度と平成29年度とを比較すると、約22%減少している。



# ◆ 市営駐車場利用状況

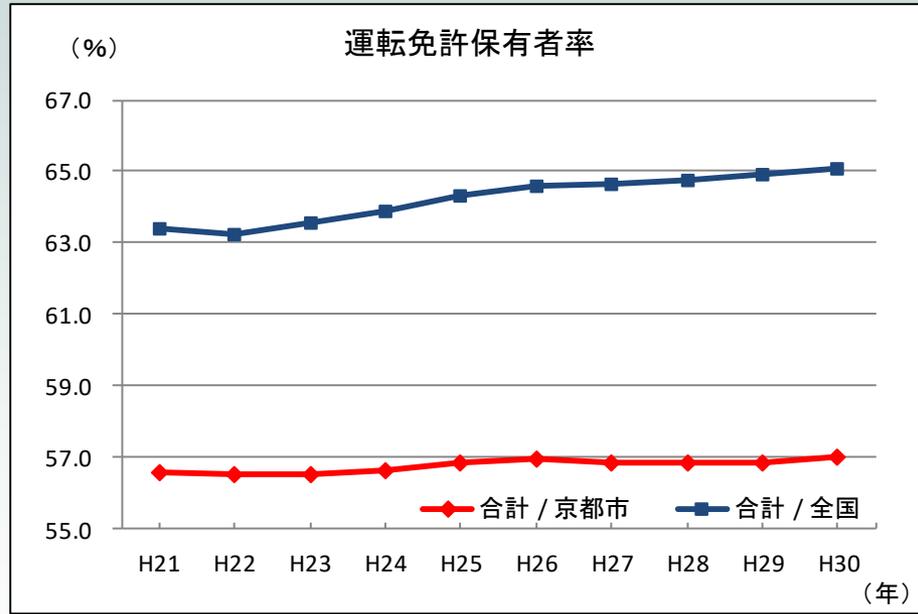
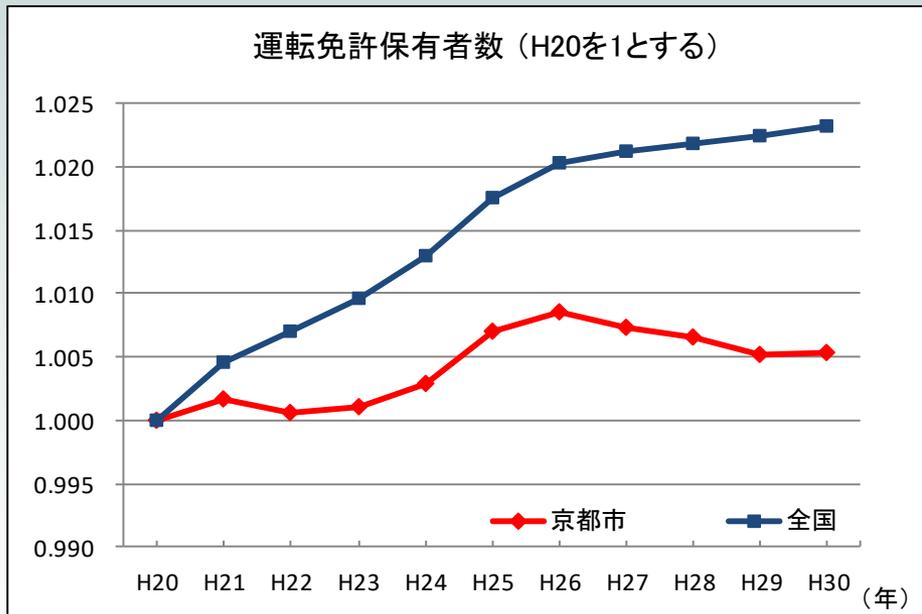
- 市営駐車場の一日の平均利用台数は、経年的に減少傾向にある。
- 平成21年度と平成30年度とを比較すると、約30%減少している。



※ 定期利用台数を含む

# ◆ 運転免許保有率

- ・ 運転免許の「保有者数」は、全国では経年的に増加傾向にあるが、京都市では平成27年以降、概ね減少傾向にある。
- ・ 運転免許の「保有率」についても、京都市は、全国より低い水準で推移している。



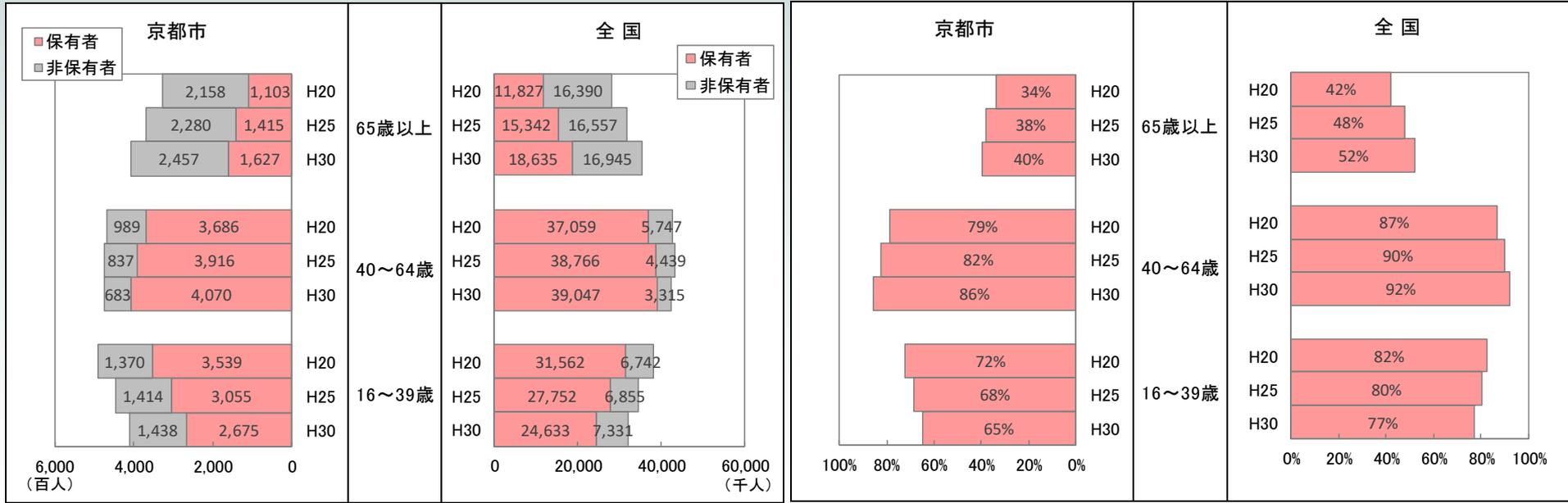
資料：京都府警，京都市推計人口，総務省統計局「人口推計」

# ◆ 運転免許保有率（年齢別）

- 運転免許の「保有率」を年齢別に見ると、京都市も全国も、39歳以下は経年的に減少しているが、40～64歳、さらには65歳以上の高齢者については、経年的に増加傾向にある。

【運転免許保有者数】

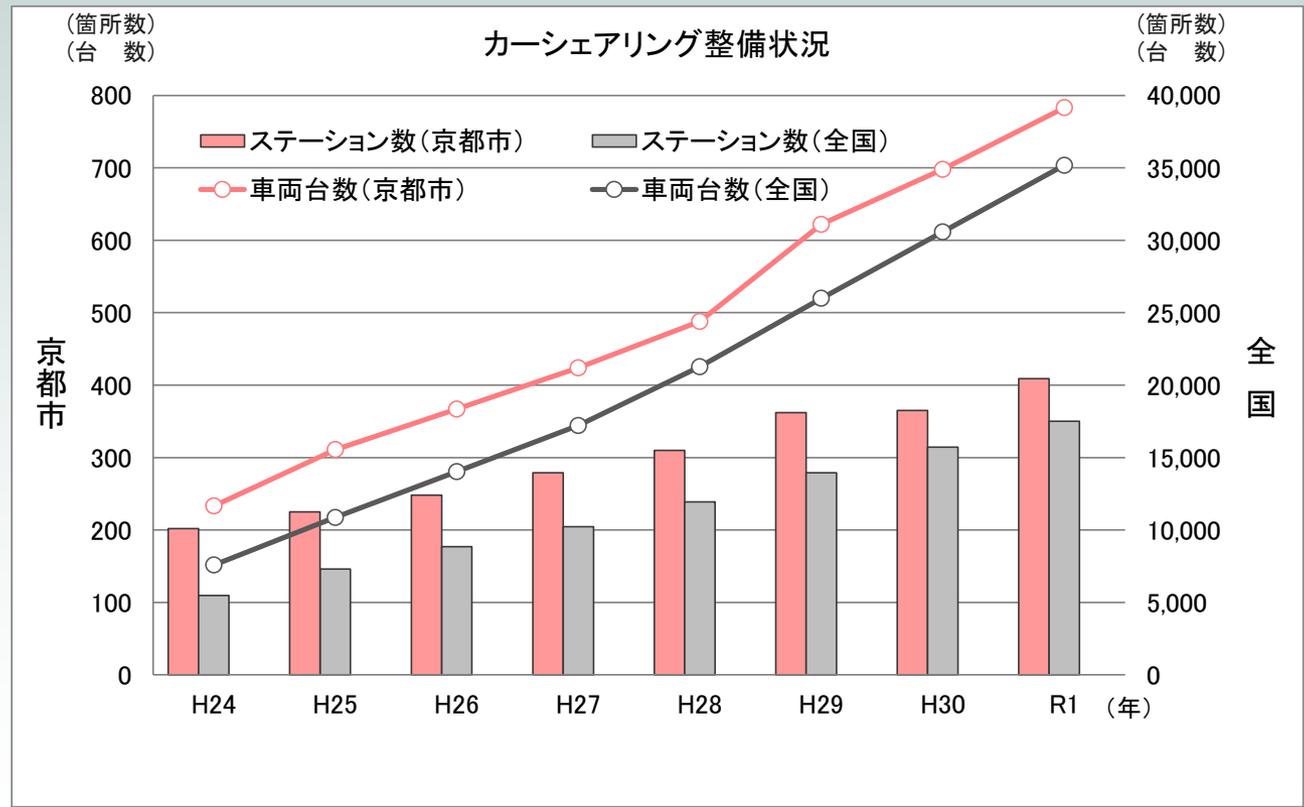
【運転免許保有率】



資料：京都府警，京都市推計人口，総務省統計局「人口推計」

# ◆ カーシェアリング整備状況

- カーシェアリングの「ステーション数」「車両台数」とともに、経年的に増加傾向で推移している。
- 平成24年と令和元年とを比較すると、京都市における車両台数は約3.4倍に増えている。



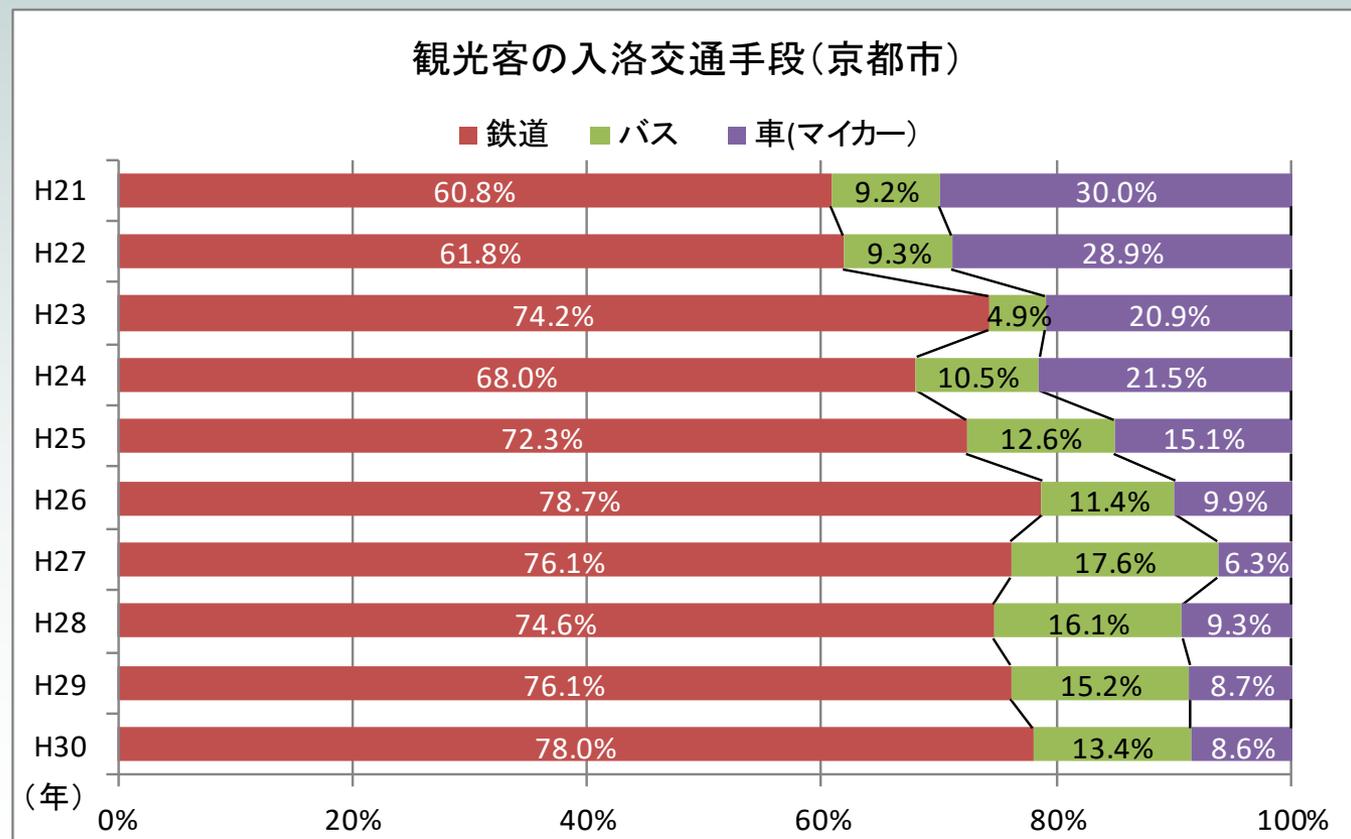
※ この統計に含まれるカーシェアリング・サービスは以下の8社で集計

タイムズカープラス、カレコ・カーシェアリングクラブ、オリックスカーシェア、カリテコ、アース・カー、D-Share、エコロカ、Joyca

資料：カーシェア・マップ株式会社「カーシェアリング・ステーション統計情報」

# ◆ 観光客の入洛時の交通手段分担

- 観光客の入洛時の交通手段について、車（マイカー）の利用割合が、平成21年の30%から平成30年は約9%にまで大きく減少している。
- 一方、公共交通機関（電車・バス）の比率は経年的に増加傾向にあり、平成26年以降、90%を超える状況が続いている。



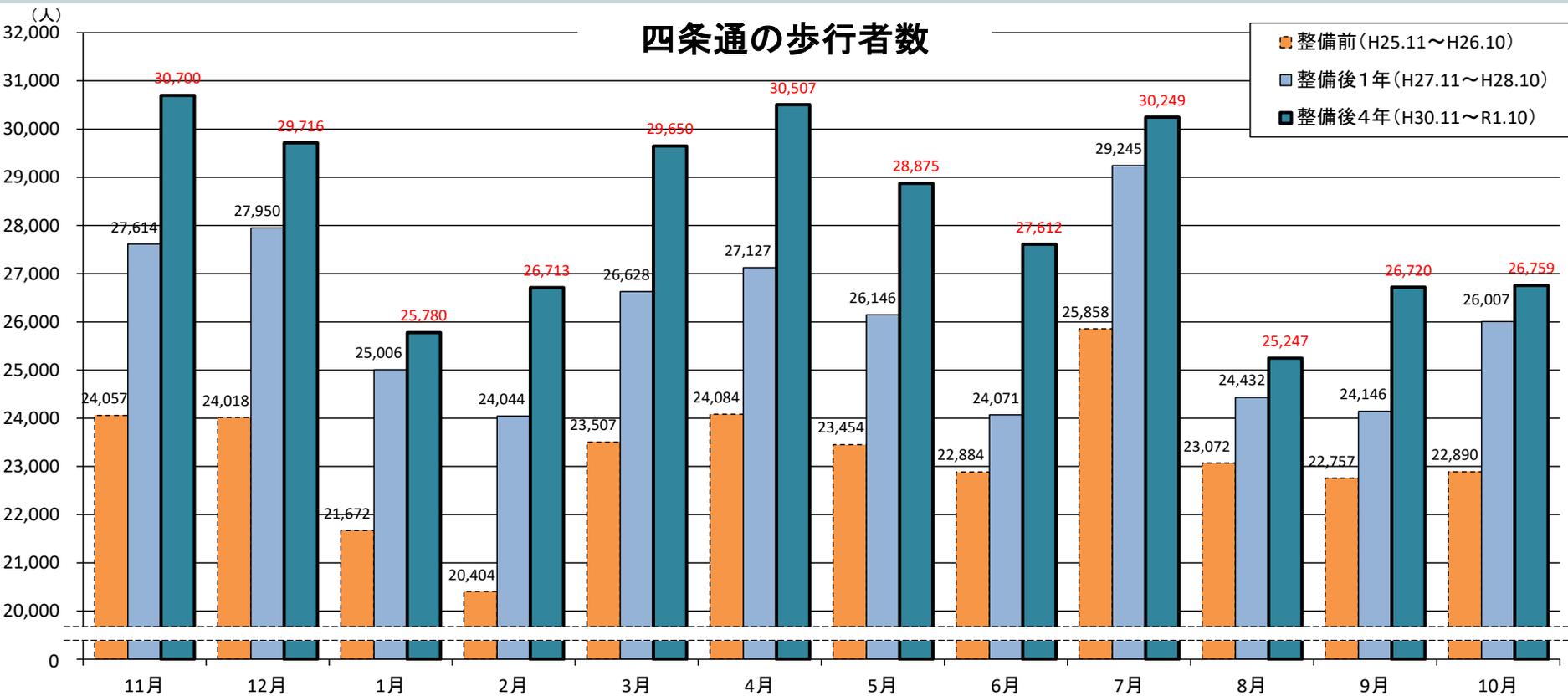
※ 京都市内の主要な鉄道駅、観光駐車場等、全13箇所において、調査時期（年4回）、曜日、時間を概ね合わせたうえで無作為に調査対象者を抽出し、郵送回答の方法で調査を実施

資料：京都市観光調査年報（H21, H22）、京都観光総合調査（H23～）

# ◆ まちなかの歩行者交通量

- ・ 四条通の歩行者数は、整備前と比べて約21%増加しており、増加傾向が継続している。

整備前（平成25年11月～平成26年10月）： 23,247人/日  
 整備後（平成30年11月～令和 元年10月）： 28,216人/日



※ 平成27年9月に歩行者カウンターのセンサー範囲を拡幅後の歩道まで拡大  
 ※ 歩行者カウンターの不備等により正確に測定できていない日は集計から除外

資料：地元商店街からの提供データをもとに京都市で集計

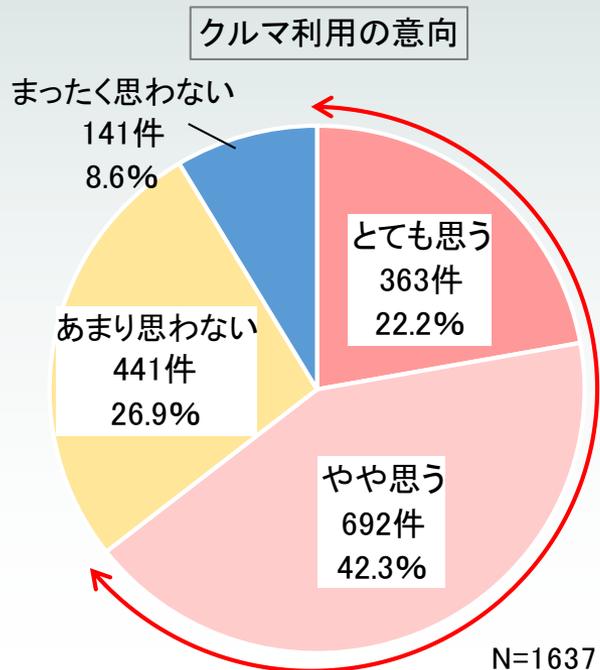
# ◆ ウェブアンケート調査結果①

## 【調査の概要】

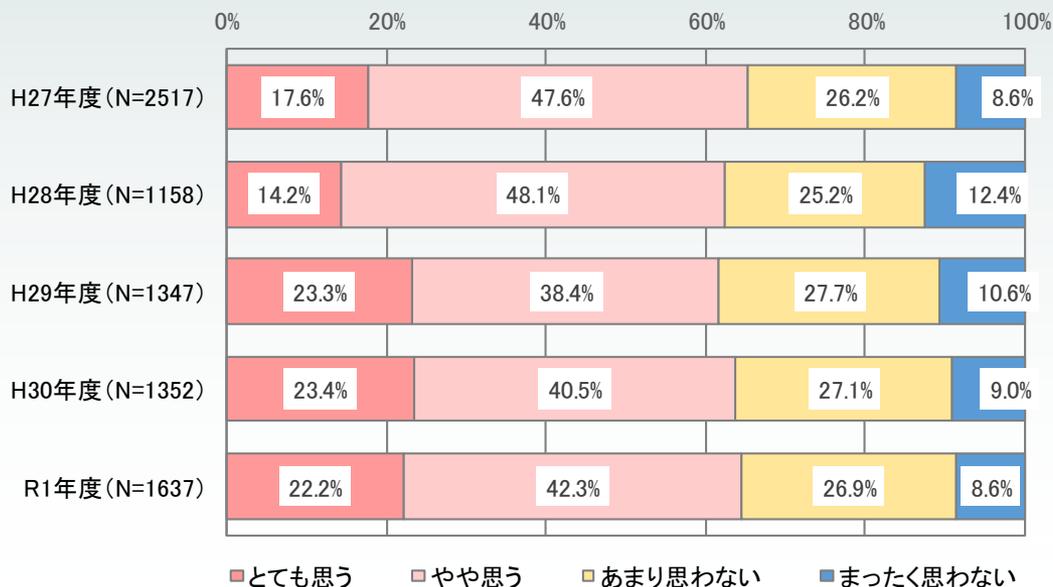
- ・ 京都市民を対象に、交通手段分担率のモニタリング調査と合わせて、クルマの利用状況や「歩くまち・京都」の取組の認知度等について尋ねるウェブアンケート調査を実施
- ・ 調査期間：令和元年10月18日～10月23日 ・ サンプル回収数：1,637サンプル

## クルマ利用を控える意向

- ・ クルマの利用を控えようと思うかどうかについては、「とても思う」「やや思う」という回答が6割を超えている。



問 あなたは、クルマ利用を控えようと思われますか？

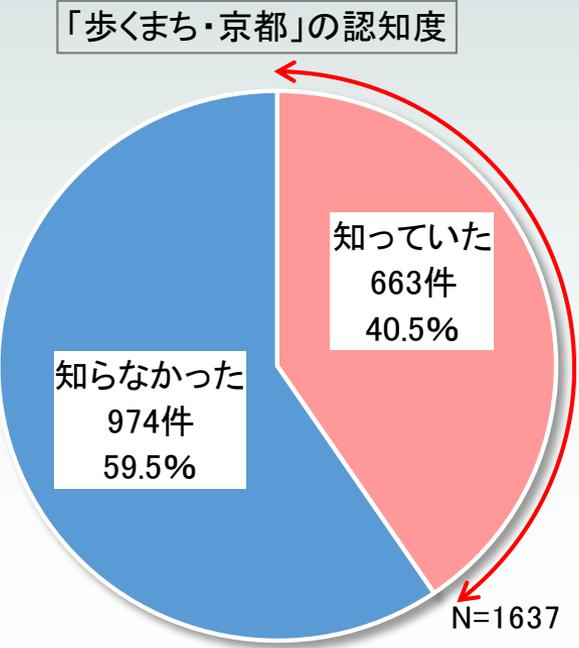


# ◆ ウェブアンケート調査結果②

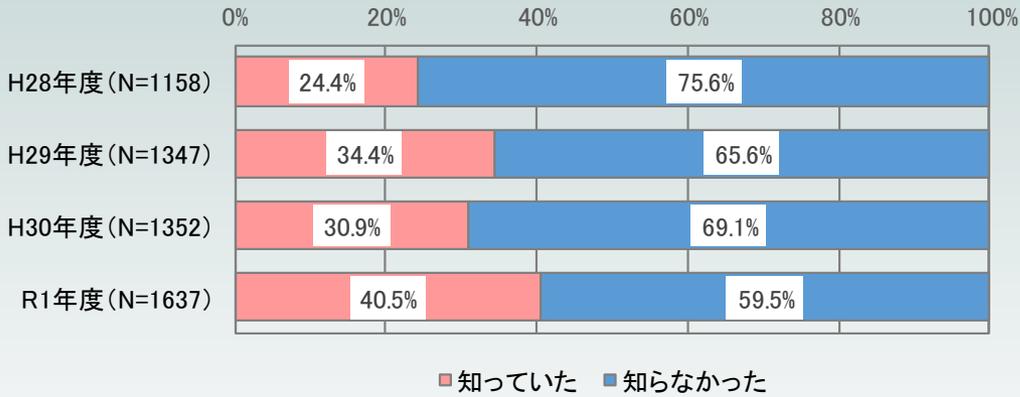
## 「歩くまち・京都」の取組の認知度（憲章の認知度）

- 「歩くまち・京都」の取組を知っている人は約4割で、過年度と比べると増加傾向。
- 「歩くまち・京都」の取組を知っている人は、クルマの利用を控える意向が強い。

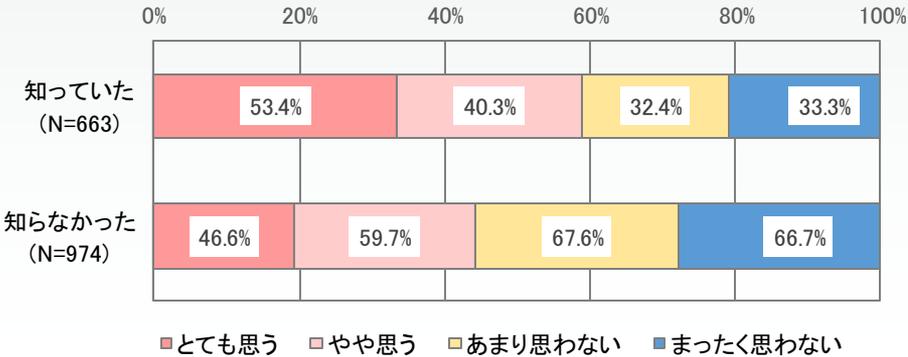
問 あなたは、「歩くまち・京都」の取組をご存じでしたか？



問 「歩くまち・京都」の取組の認知度（経年比較）



問 取組の認知度 × 問 あなたは、クルマ利用を控えようと思われませんか？



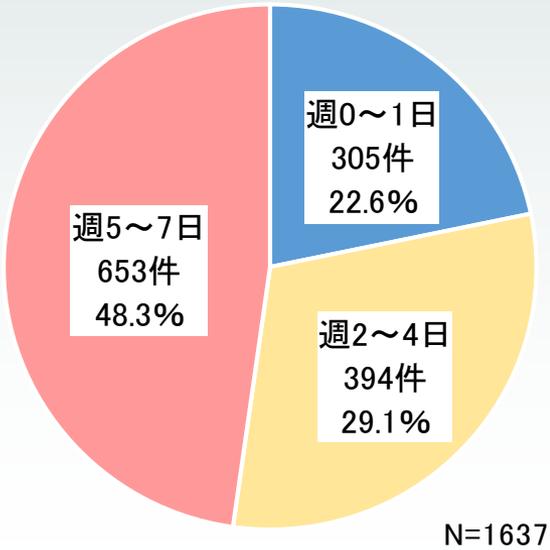
# ◆ ウェブアンケート調査結果③

## 歩行習慣と公共交通の利用状況

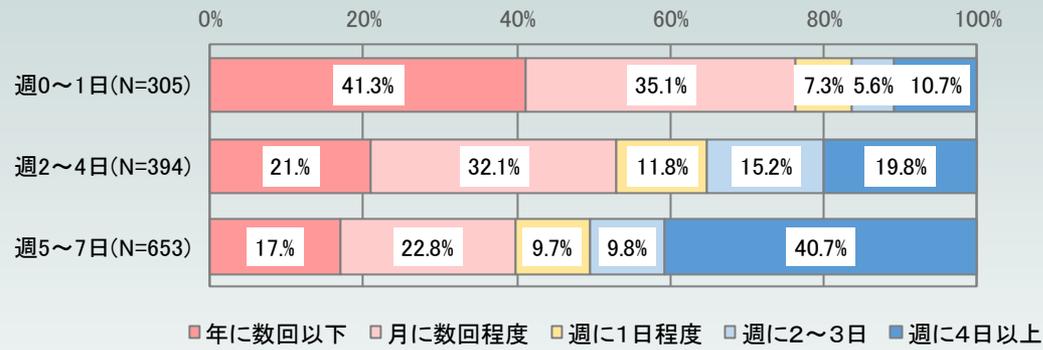
- 歩行習慣のある人は、鉄道・バスの利用頻度が高く、クルマの利用を控える意向も強い。

問 平均的な1週間では、10分以上続けて歩くことが何日ありますか？

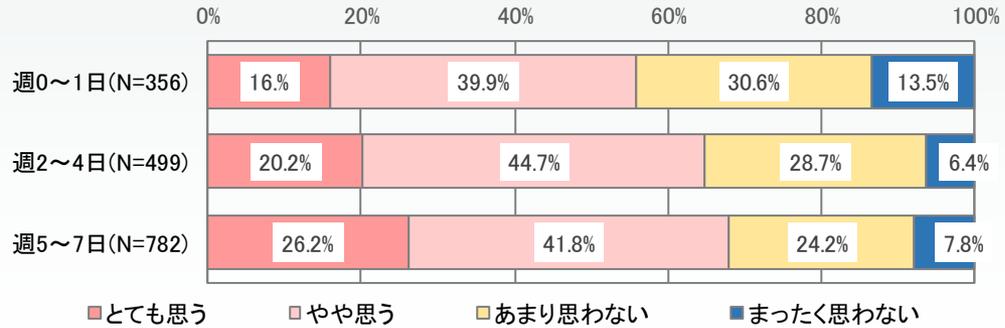
日常的な運動



問 1週間で10分以上続けて歩く日数 × 問 鉄道やバスでの移動回数



問 1週間で10分以上続けて歩く日数 × 問 あなたは、クルマ利用を控えようと思われませんか？



## 議題(2)

# 令和2年度の「歩くまち・京都」の取組について

(2)-1 「歩くまち・京都」総合交通戦略の改定等

(2)-2 その他の主な取組

## (2)–1 「歩くまち・京都」総合交通戦略の改定等

### ◆ 「歩くまち・京都」総合交通戦略（平成21年度策定）

#### 戦略策定から10年を経過し …

- ・ 非自動車分担率は高水準を維持
- ・ 公共交通の利用者数が増加
  - ⇒ クルマから「歩く」ことを中心としたまちと暮らしへの転換が一定進展
  - ⇒ 一方、10年前には想定していなかった新たな課題の発生や、自動運転技術・MaaSといった新技術・新概念の進展など、社会経済情勢は大きく変化

詳細は  
資料7で  
説明

### ◎ 令和2年度に総合交通戦略の改定等見直しに取り組む

- ・ 令和2年度に新たに設置予定の「歩くまち・京都」総合交通戦略審議会において、社会経済情勢の変化への対応、環境負荷の低減や健康増進など、多様な観点から御審議いただく
- ・ 上記審議会を設置する令和2年度中は「歩くまち・京都」推進会議の活動を休止する。

## (2)-2 その他の主な取組

### <「既存公共交通」の取組>

- ・ 駅及び周辺道路等のバリアフリー化整備を推進（JR西大路駅，JR桃山駅，京阪鳥羽街道駅のバリアフリー化整備，JR京都駅の昇降式ホーム柵整備）
- ・ 生活交通の維持・確保に係るバス事業者への支援の取組として，新たに，運転士不足解消に向けたバス事業者への支援を実施（運転士確保や魅力のPRを目的とした合同就職説明会の開催等に関する経費の補助）

### <「まちづくり」の取組>

- ・ 「歩いて楽しい東大路」の形成を目指し，歩道の横断勾配改善や景観に配慮した道路整備（石畳風舗装等）を実施
- ・ 東本願寺前における市民緑地整備事業について，設計に着手

### <「ライフスタイル」の取組>

- ・ これまでの取組に引き続き，あらゆる機会を捉えて，モビリティ・マネジメントの取組を展開
- ・ 関係者の意見聴取やアンケート等の活用により，フィードバックを得ながら，地域の皆様，交通事業者，行政が一体となって進めていく